

## 生徒のコミュニケーション能力を育むための学習指導

～知識・技能の活用を図るための「目的や場面、状況などを明確にした『やり取り』」の工夫を通して～

豊見城市立豊見城中学校教諭 仲村 姫園

### I テーマ設定の理由

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説外国語編」（以下「解説外国語編」と表す）の総説において、「グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上が課題となっている。」と指摘されている。絶え間ない技術革新など、めまぐるしく変化している社会を子ども達が切り拓いていくためには、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していく力が必要である。

平成29年告示中学校学習指導要領外国語（以下「学習指導要領」と表す）の目標では、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す」ことが示されている。つまり、実際のコミュニケーションにおいて、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して、自分の思いや考えを表現したり伝え合ったりすることができる能力や態度を育成することが求められている。

これまでの実践を振り返ると、解説外国語編でも課題として上げられている授業スタイル、つまり文法指導に重点を置いたドリル学習中心の指導（教え込み）が多く、習得した表現を活用する場面が少なかった。また、コミュニケーションを行う際も、習得した表現を単方向に伝えるだけのコミュニケーションになってしまい、生徒同士の「やり取り」や生徒と教師の「やり取り」等が少なく、相手意識のある双方向（伝え合い）のコミュニケーションを行うことができなかった。その要因として、①英語を使う目的の提示が不十分で、生徒が英語表現を使う場面を想像できていなかった。②活用する場の設定が少なかったため、間違うのが恥ずかしくて自信を持って表現できなかったなど、色々考えられる。それらいくつかの要因の中でも本研究では、生徒に英語を使う目的の提示の仕方や習得した表現を活用する指導の工夫が十分ではなかったことに焦点を置いて研究する。

そこで本研究では、生徒のコミュニケーション能力を育むことができるように、英語で表現したくなる目的や場面、状況などを明確にした言語活動を工夫する。その際、教師と生徒、生徒同士の「やり取り」を大切にしたい言語活動を中心に授業を行っていきたい。英語学習において、知識・技能の活用を図るための「目的や場面、状況などを明確にした『やり取り』」を工夫することにより、生徒のコミュニケーション能力を育むことができるであろうと考え、本テーマを設定した。

### II 研究仮説と検証計画

#### 1 研究仮説

英語学習において、知識・技能の活用を図るための「目的や場面、状況などを明確にした『やり取り』」を工夫することにより、生徒のコミュニケーション能力を育むことができるであろう。

#### 2 検証計画

事前に行う英語の授業に関するアンケート調査等から、生徒の実態調査・分析・把握を行う。検証授業は、3年6組の学級で9時間行う。検証授業では、生徒の発言、ペア活動の様子、ワークシート

の記述、振り返り等により、生徒が間違ふことを恐れず、様々な工夫をして会話を続けようとしていたか、また生徒のコミュニケーション能力が育まれたかを考察する。単元終了後にアンケートを実施し、事前調査との比較・分析を行い本研究の仮説を検証していく。

検証授業の対象：豊見城中学校 3年6組 [男子20名 女子17名 計37名]		主な検証方法				
1 事前調査	○英語の授業に関する事前アンケート (6月中旬)	・事前アンケートの分析				
2 検証授業	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日程</th> <th>検証の観点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1時 (6/26)</li> <li>・第2時 (6/27)</li> <li>・第3時 (6/29)</li> <li>・第4時 (7/2)</li> <li>・第5時 (7/9)</li> <li>・第6時 (7/10)</li> <li>・第7時 (7/11)</li> <li>・第8時 (7/13) 検証授業</li> <li>・第9時 (7/17)</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・間違いを恐れず、様々な工夫をして会話を続けようとしているか。</li> <li>・知識・技能の活用を図るための「目的や場面、状況などを明確にした『やり取り』」の工夫を行うことで、生徒のコミュニケーション能力を育むことができたか。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	日程	検証の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1時 (6/26)</li> <li>・第2時 (6/27)</li> <li>・第3時 (6/29)</li> <li>・第4時 (7/2)</li> <li>・第5時 (7/9)</li> <li>・第6時 (7/10)</li> <li>・第7時 (7/11)</li> <li>・第8時 (7/13) 検証授業</li> <li>・第9時 (7/17)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・間違いを恐れず、様々な工夫をして会話を続けようとしているか。</li> <li>・知識・技能の活用を図るための「目的や場面、状況などを明確にした『やり取り』」の工夫を行うことで、生徒のコミュニケーション能力を育むことができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業観察 (発言、態度等)</li> <li>・毎時の帯活動の様子</li> <li>・ペア活動の様子</li> <li>・ワークシート</li> <li>・毎時の振り返り (生徒の自己評価)</li> <li>・授業記録 (写真、ビデオ等)</li> </ul>
日程	検証の観点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1時 (6/26)</li> <li>・第2時 (6/27)</li> <li>・第3時 (6/29)</li> <li>・第4時 (7/2)</li> <li>・第5時 (7/9)</li> <li>・第6時 (7/10)</li> <li>・第7時 (7/11)</li> <li>・第8時 (7/13) 検証授業</li> <li>・第9時 (7/17)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・間違いを恐れず、様々な工夫をして会話を続けようとしているか。</li> <li>・知識・技能の活用を図るための「目的や場面、状況などを明確にした『やり取り』」の工夫を行うことで、生徒のコミュニケーション能力を育むことができたか。</li> </ul>					
3 事後調査	○事後アンケート (7月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事後アンケートの分析</li> <li>・自己評価表の分析</li> <li>・ワークシート</li> <li>・授業記録、生徒の感想等の分析</li> </ul>				
4 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○間違いを恐れず、様々な工夫をして会話を続けることができたか。</li> <li>○知識・技能の活用を図るための「目的や場面、状況などを明確にした『やり取り』」の工夫を行うことで、生徒のコミュニケーション能力を育むことができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前・事後のアンケートの比較・分析</li> <li>・結果のまとめ・考察</li> </ul>				

### Ⅲ 研究内容

#### 1 英語でコミュニケーションを行うとは

##### (1) コミュニケーションを行うとは

コミュニケーションには、様々な定義がある。泉・門田 (2016) は、「言葉を使って相手と意思を伝え合うことであり、人と人の心の交流 (気持ちや考え) があり、相手や周りを含めた新たな発見、自己表現、言語あるいは非言語によるメッセージの交換を通して、お互いに意味を創出し、つながり、ひびきあい、関係を築くこと。」と述べている。また、国際的な基準 CEFR (外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠) では、「人間が言語を用いて行うタスク (CEFR では人間の行為全般をいう) は reception (受容)、interaction (やり取り)、production (産出) の3領域に分かれており、それらが総合的に『コミュニケーション活動』と呼ばれている」と述べている。

##### (2) コミュニケーション能力とは

第二言語習得 (SLA) の分野でコミュニケーション能力を表すものとして、Canale and Swain (1980) は、下の4つの能力からなると定義している (表1)。従来は、単語と文法がわかれば英語でのコミュニケーションはできると思われていたが、実際のコミュニケーションの場では、①文法能力だけでは言語を使うことはできず、②談話能力③方略能力④社会言語能力の全てが、実際のコミュニケーションを行う際に必要な能力として捉えられている。

表1 コミュニケーション能力 (Canale & Swain, 1980)

①文法能力 (grammatical competence)	語彙、文法など言語項目を使いこなす能力
②談話能力 (discourse competence)	まとまりのある文章・会話を理解し、作り上げる能力
③方略能力 (strategic competence)	コミュニケーションを円滑に進めるための方略 (助けを求めたり言い換えたりすること) を使う能力
④社会言語能力 (sociolinguistic competence)	社会文化的規則に従って適切に言語を使う能力

##### (3) コミュニケーション能力を育む言語習得の認知プロセスに合った効果的な学習法

村野井 (2006) によると、第二言語を習得する際、インプットの気づき、理解、内在化、統合などの認知プロセスが重要で、それらが連動することでアウトプットが可能になるとしている (R. Ellis, 1994, 1997a; Gass, 1988, 1997; Gass & Selinker, 2000; Izumi, 2003; Skehan, 1998; Swain & Lapkin, 1995; 小柳, 2004 など参照)。また、村野井は、学習者が自分の耳や目を通して

入ってくる言語項目に気づくこと、つまり注意を向けることが最初のプロセスで、次にその言語形式と意味のつながりや機能を把握、「形式・意味・機能マッピング」で理解されることへとつながると述べており、気づかれ、そして理解されたインプットが学習者の内部に取り込まれることが「内在化」であるとしている。さらに、内在化を促すために、インタラクションやアウトプット活動の中で、相手からフィードバックを受けることで仮説検証（表現の使い方が当たっていたなど）が引き起こるとし、その学習者内部に育った言語知識を、瞬時に表現することができ、自分のものになることが「統合」であると述べている。

そこで本研究では、授業全体を通して実際の言語の使用場面を重視して展開し、帯活動で相づちや言い換え表現を段階的に取り入れ、ペア活動での「やり取り」（インタラクション）を通して、コミュニケーション能力を育む活動について研究する。実際に言語を活用（表現）する場を増やすことで、表1のコミュニケーション能力である文法能力と同時に、談話的能力・方略的能力・社会言語能力も徐々に身につくであろうと考える。

## 2 生徒のコミュニケーション能力を育む学習指導の工夫について

### (1) 「やり取り」（インタラクション）の工夫

学習指導要領では、「話すこと」の領域が、「やり取り」と「発表」に分けられ、「話すこと〔やり取り〕」が新設されている。「話すこと〔やり取り〕」の目標の中の一つに重要なキーワードとして、「即興で」が掲げられている。「即興で伝え合う」とは、話すための原稿を事前に用意してその内容を覚えたり、話せるように練習したりするなどの準備時間を取ることなく、不適切な間を置かずに相手と事実や意見、気持ちなどを伝え合うことである。

村野井（2006）は、インタラクションとは「言語を使って、他の対話者と情報のやり取りなどの意思伝達をすることを意味する。」と述べている。インタラクションの中では、対話者同士が、お互いの意思を伝え合おうとし、相手に自分の意思が伝わっていないと感じられる時には、表現を言い換えてみたり、自分自身が相手の言っていることが分からない時には、繰り返しを求めたり確認したりする。このようなお互いが意思の疎通を求めて何らかの努力をすることを、「意味交渉」と呼び、この意味交渉が、第二言語習得にとって重要な働きをされると考えられている（Gass, 1997, 2003; Long, 1996; Pica, 1994 など）。またCEFRでは、「話すこと」の「やり取り」（interaction）は、少なくとも2人以上の個人が言葉のやり取りをし、その際、産出的活動と受容的活動が交互に行われ、口頭でのコミュニケーションの場合は同時に行われることもあると述べられている。対話者が同時に話し、聞くだけでなく、聞き手は話し手の話を先回りして予測し、その間に答えを準備するなど、「やり取り」は言語使用と言語学習の中でも大きな重要性が認められることから、コミュニケーションにおける中枢的役割を果たしているとされている。このことから、インタラクション活動を継続的に行うことを通して、言語表現を学び習得することができ、コミュニケーション能力が徐々に身についてくるであろうと考える。

### (2) 場面設定の工夫

生徒が自分の思いや考えを伝えることができるようになるには、生徒が自分で考えた事を表現する言語活動、つまり生徒が自分自身で考えた新しい情報を「やり取り」する活動が重要である。生徒が自分の思いや考えを表現するためには、その言語活動が生徒にとって身近で興味の持てる場面設定であるか、英語を使う目的が明確で、伝えたい必然性の高い活動になっているかが大事である。

田中・田中（2003）は、「自己表現活動（生徒が自分で考えたことを表現する言語活動）に生徒を積極的に取り組ませるためには、まず教師自身がなんのためにその活動をするのか、その活動にはどのような特徴があるのか、どのような活動を工夫すべきなのか、言語活動の本質をしっかりと理解することが重要である。活動の本質を十分に理解し、生徒の興味やチャレンジ精神を高める工夫をしてはじめて表現意欲をかき立てる言語活動に変えることができる。」と述べている。生徒の表現意欲を高める言語活動にするためには、下記の4つの工夫（①必然性を高める②具体性を高める③自

己関連性を高める④自由度を高める)が重要であると田中・田中は示している(表2)。

表2 自己表現意欲を高める言語活動の工夫

①必然性	生徒が自然に表現したいと思うような場面や状況を作り出すこと
②具体性	生徒に活動内容を具体的にイメージさせて活動に取り組みさせること
③自己関連性	生徒自身のことや身近で関連のある事柄を扱うこと
④自由度	生徒自身の意思や判断によって自由に表現させること

そこで本研究では、生徒に関連した内容や興味を持って取り組むことができる言語活動の場面設定を工夫し、英語を使う必然性を生徒が感じることができるよう、「目的や場面、状況などを明確にした『やり取り』」を通して、生徒のコミュニケーション能力を育む活動について研究する。

### (3) 検証授業で行う知識・技能の活用を図るための工夫

- ① Greeting では、教師の Small Talk で生徒との「やり取り」を行う。また帯活動では、「やり取り」で使われる便利な表現(相づちやつなぎ言葉、聞き返しや確認など)を Q&A を通して活用し、短い「やり取り」に慣れさせる。
- ② 身近な話題を用いた教師の話から、生徒との「やり取り」を通して、既習表現の復習や新出表現の導入を行う。
- ③ 知識・技能の活用を図るために、必然性、具体性、自己関係性があり、目的や場面、状況などを明確にし、自由度がある言語活動の工夫を行う。本単元 Lesson3 で主な文法表現は、現在完了の継続用法(ずっと～している)・経験用法(～したことがあります)であるため、みんなが知らない自分の特技(習い事)、ファン歴や今まで行ったことがある場所や経験などを基に、交換留学生と夏休みに遊びに行くという場面設定を工夫し、「やり取り」を通して交換留学生に沖縄のおすすめスポットを英語で紹介する活動を行い、生徒のコミュニケーション能力を育む。
- ④ 即興の「やり取り」の活動後、中間評価を行い、友達の発表や教師のリキャスト(言い直し)から新たな表現や正しい表現の仕方に気づき、次の活動に生かせるようにする。

## IV 検証授業

### 1 単元名 Lesson3 E-mails from Alaska and India (TOTAL ENGLISH 3)

#### 2 単元の目標

- 間違ふことを恐れず会話を続けようとしている。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- 日常的な話題について、つなぎ言葉を用いるなどの様々な工夫をして、英語で「やり取り」する。  
【外国語表現の能力】

○次の表現を用いた文構造を理解する。現在完了の継続・経験/It is ... to ~

【言語や文化についての知識・理解】

#### 3 単元について

##### (1) 教材観

本単元は、夏休みにベンがアラスカをミクがインドを訪問し、その様子をEメールで「やり取り」するという設定になっている。旅先から手紙やメールを出す場面で活用できる表現やアラスカやインドの様子、異文化を学ぶ良い機会だと考える。

言語材料は、現在完了の継続・経験、It is ... to~の用法が扱われており、実際のコミュニケーションの場面でも使用頻度の高い表現である。そこで本単元では、これらの表現を活用する目的や場面、状況などを明確にして、日常的な話題について、つなぎ言葉を用いるなどの様々な工夫をして、英語で「やり取り」ができる力を育みたい。段階的指導として、①教師による Small Talk で、今話題の話や生徒が興味を持ちそうな話を取り上げて、本時の言語材料である現在完了形を実際に使いながら、生徒と「やり取り」を行う。②毎時の帯活動では、コミュニケーションを円滑にする表現を活用し、既習や新出表現に慣れる Q&A を行う。③導入では、身近な話題や有名人などの

教師の話から、生徒との「やり取り」を通して新出表現を習得させる。④新出表現を活用した場面設定を工夫し、目的や状況を明確にして、今まで継続してやってきているスポーツや趣味などのこと、経験したことがあること、沖縄の紹介などの、日常的な話題について、英語で「やり取り」する力を育みたい。

(2) 生徒観 (省略)

(3) 指導観 (省略)

#### 4 評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力		ウ 外国語理解の能力		エ 言語や文化についての知識・理解	評価方法
	話す	書く	聞く	読む		
間違えることを恐れず会話を続けようとしている。	日常的な話題について、つなぎ言葉を用いるなどの様々な工夫をして、英語で「やり取り」することができる。				・現在完了(継続・経験)、It is... to...の文構造を理解している。	ア 活動の観察 イ インタビューテスト エ 定期テスト

#### 5 指導と評価の計画 (全9時間)

時	○ねらい ・学習活動	知識・技能の活用を図るための「やり取り」の工夫	
1	○本単元で身に付ける技能や学習内容を知る。 ・授業の流れと評価方法を確認する。		
	<b>単元目標：日常的な話題について、つなぎ言葉を用いるなどの様々な工夫をして、英語で「やり取り」する。</b>		
	○現在完了(継続)の文構造を理解する。 ・Greeting & Small Talk ・帯活動(Q & A①) ・現在完了(継続) [have+過去分詞～for(since)～.] を用いた文の構造を理解する。 ・絵や写真を使用しこの表現を用いて、口頭練習をする。(活用①) <b>(スポーツや趣味など) 自分が続けていることを英語で伝えたり、相手にたずねたりすることができる。</b>	知識・理解	○現在完了(継続) [have+過去分詞～for(since)～.] を用いた文構造を理解する。
		活用① やり取り	・パワーポイントで絵や写真を使って、対話している吹き出しに入る台詞を考え表現できる。 (パターンプラクティス)
	○交換留学生とお互いのことや続けていることなどを伝え合う。(活用②) ・ペアで活動する。(ロールプレイ) ① 1人は留学生役になり、お互いの事や続けていることなどを伝え合う。 ② 留学生役と中学生(本人)を交換し、①を行う。 ③ 別のペアと繰り返す。(2～3人と①の「やり取り」をする。) ・自分が続けていることを英文で書く。 ・自己評価をする。	活用② やり取り	<b>【目的や場面、状況など】</b> ・クラスに来た交換留学生と友達になる。 ・クラスにやってきた交換留学生に、お互いのことや続けていることなどを伝え合う。  (交換留学生のカードに情報を提示)
2	○現在完了(継続) [How long have you ～?] の文構造を理解する。 ・Greeting & Small Talk ・帯活動(Q & A②) ・現在完了(継続) [How long have you ～?] を用いた文の構造を理解する。 ・絵や写真を使用しこの表現を用いて、口頭練習をする。(活用①) <b>自分の好きな人(芸能人・歌手など)について英語でくわしく説明し合うことができる。</b>	知識・理解	○現在完了(継続) [How long have you ～?] を用いた文構造を理解する。
		活用① やり取り	・パワーポイントで絵や写真を使って、対話している吹き出しに入る台詞を考え表現できる。 (パターンプラクティス)
	○交換留学生とお互いに自分の好きな人(芸能人・歌手など)について伝え合う。(活用②) ・ペアで活動する。(ロールプレイ) ① 1人は留学生役になり、お互いの事を伝え合う。 ② 留学生役と中学生(本人)を交換し、①を行う。 ③ 別のペアと繰り返す。(2～3人と①の「やり取り」をする。) ・英語の質問に関して自分自身の答えを書く。 ・自己評価をする。	活用② やり取り	<b>【目的や場面、状況など】</b> ・クラスに来た交換留学生と仲良くなる。 ・給食時間に流れてきた音楽を聞いて、好きな音楽の話から会話が盛り上がり、交換留学生とお互いに自分の好きな人(芸能人・歌手など)について伝え合う。  (交換留学生のカードに情報を提示)

3	<p>○現在完了（経験）疑問文の文構造とその答え方を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Greeting &amp; Small Talk</li> <li>・帯活動（Q &amp; A③）</li> </ul> <p>・現在完了（経験）[Have you ever ~? Yes, I have. / No, I haven' t.] を用いた文の構造を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵や写真を使用しこの表現を用いて、口頭練習をする。その質問文を使って友達の経験を聞き合う。また、実際に○○を経験したことがある生徒を教師が挙手で確認し、その友達を探す。（活用①）</li> </ul>	知識・理解	○現在完了（経験）[Have you ever ~? Yes, I have. / No, I haven' t.] を用いた文構造を理解する。
	<p>与えられた Topic（沖縄に関すること）について、英語で説明し、たずねることができる。</p>	活用① やり取り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントで絵や写真を使って、作成した質問文に対してペアで対話し合い表現できる。（パターンプラクティス）</li> <li>・実際に○○を経験した友達を探す。</li> </ul>
	<p>○外国人に沖縄ことについて紹介する。（活用②）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで活動する。（ロールプレイ）</li> <li>① 1人は外国人役になり、お互いの事を伝え合う。</li> <li>② 外国人役と中学生（本人）を交換し、①を行う。</li> <li>③ 別のペアと繰り返す。（2～3人と①の「やり取り」をする。）</li> <li>・英文の質問に関して自分自身の答えを書く。</li> <li>・自分が経験したことがあること、経験したことがないことを英文で書く。</li> <li>・自己評価をする。</li> </ul>	活用② やり取り	<p>【目的や場面、状況など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人観光客に沖縄のことを紹介しよう。</li> <li>・ライカムにいる時、外国人観光客に話しかけられる。外国人観光客は、沖縄にくるのが初めてで、沖縄について、いろいろ知りたいがっている。</li> </ul> <p>（紹介する物を写真で提示し、それについて紹介していく。）</p>
4	<p>○It is... for ~ to ____ の文構造を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Greeting &amp; Small Talk</li> <li>・帯活動（Q &amp; A④）</li> </ul> <p>・It is... for ~ to ____ を用いた文の構造を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵や写真を使用しこの表現を用いて、口頭練習をする。（活用①）</li> </ul>	知識・理解	○It is... for ~ to ____ を用いた文構造を理解する。
	<p>自分の好きなことや経験したことなどについて自分の考えや気持ちを入れて英語で話すことができる。</p>	活用① やり取り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントで絵や写真を使って、対話している吹き出しに入る台詞を考え表現できる。（パターンプラクティス）</li> </ul>
	<p>○好きなことや経験したことについてお互いのことを話し合う。（活用②）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで活動する。（ロールプレイ）</li> <li>① 1人が落ち込んでいる表情から、どうしたのか聞きながら、お互いの事を伝え合う。</li> <li>② 役を交換し、①を行う。</li> <li>③ 別のペアと繰り返す。（2～3人と①の「やり取り」をする。）</li> <li>・自分にとって楽しいこと大切なことを英文で書く。</li> <li>・自己評価をする。</li> </ul>		<p>【目的や場面、状況など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの友達のことをもっと知る。</li> <li>・休み時間の友達との会話。好きなことや経験したことを話題にしてお互いのことを話し合う。</li> </ul>
5	<p>○現在完了（経験）の肯定文・否定文の文構造や L3 の既習表現を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Greeting &amp; Small Talk</li> <li>・帯活動（Q &amp; A⑤）</li> </ul> <p>・ペアで、一人が写真の物を説明し、もう一人がそれが何か当てる。（活用①）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在完了（継続・経験）、It is... for ~ to ____ の表現を復習する。</li> </ul>	知識・理解	○現在完了（経験）[I have ~once. / I have never ~.] を用いた文構造や L3 の既習表現を理解する。
	<p>沖縄のことを英語で紹介することができる。</p>	活用① やり取り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントで絵や写真を使って、一人がその物を説明し、一人がそれが何か考え答える。</li> </ul>
	<p>○交換留学生に、沖縄の食べ物や場所について説明する。（活用②）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで活動する。（ロールプレイ）</li> <li>① 1人は留学生役になり、お互いの事を伝え合う。</li> <li>② 留学生役と中学生（本人）を交換し、①を行う。</li> <li>③ 別のペアと繰り返す。（2～3人と①の「やり取り」をする。）</li> <li>・活用②で行った「やり取り」の1つを選び、対話を書く。</li> <li>・自己評価をする。</li> </ul>	活用② やり取り	<p>【目的や場面、状況など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄のことを紹介する。</li> <li>・クラスに交換留学生がやってきた。沖縄の食べ物や場所など、交換留学生に聞かれたことを説明する。</li> </ul> <p>（参考に食べ物・場所・伝統など写真で提示）</p>
6	<p>○本文のあらすじをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Greeting &amp; Small Talk</li> <li>・グループに分かれ、エキスパートリーディングを通して本文のおおまかな内容を知る。</li> <li>・自分のパートの内容を理解する。</li> <li>・同じパート担当のグループで内容についてまとめる。</li> <li>・グループに戻りそれぞれまとめた内容を英語で伝える。（やり取り）</li> <li>・自分以外のパートの内容を聞き、まとめる。</li> <li>・内容について質問する。</li> <li>・教師と生徒の「やり取り」をしながら本文のあらすじを確認する。</li> <li>・自己評価をする。</li> </ul>	活用① やり取り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1時～第5時で習得した知識・技能を活用して、本文を読み、あらすじをまとめる。</li> </ul>
		活用② やり取り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループに戻りそれぞれまとめた内容を英語で伝える。（やり取り）</li> <li>・レッスンの大まかな内容（要点）を英語で書く。</li> </ul>
7	<p>○本文の内容を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Greeting &amp; Small Talk</li> <li>・帯活動（Q &amp; A⑥）</li> </ul> <p>・本文の内容についての Q&amp;A を行い、教師と生徒が「やり取り」をしながら確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の音読を通して本文の内容を理解する。</li> <li>・音読練習をする。</li> <li>・自己評価する。</li> </ul>	活用② やり取り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の内容についての Q&amp;A を行い、教師と生徒が「やり取り」をしながら確認する。</li> </ul>

8 本時	<p>○日常的な話題について、つなぎ言葉を用いるなどの様々な工夫をして、英語で「やり取り」する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Greeting &amp; Small Talk</li> <li>・帯活動 (Q &amp; A⑦)</li> <li>・教師のモデルを聞き、活動の流れを確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">       交換留学生に沖縄のおすすめスポットを英語で紹介することができる。     </div> <p>○交換留学生に沖縄のおすすめスポットを英語で紹介する。(活用②)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで活動する。(ロールプレイ)</li> <li>① 1人は留学生役になり、お互いの事を伝え合う。</li> <li>② 留学生役と中学生(本人)を交換し、①を行う。</li> <li>③ 別のペアと繰り返す。(2~3人と①の「やり取り」をする。)</li> <li>・活用②で行ったやり取りの1つを選び、対話を書く。</li> <li>・自己評価をする。</li> </ul>	活用② やり取り	<p>○L3で学んだ表現やこれまでの既習表現を使い、つなぎ言葉を用いたり工夫しながら相手と英語で「やり取り」する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>【目的や場面、状況など】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交換留学生に沖縄のおすすめスポットを教える。</li> <li>・クラスに交換留学生がやって来て、3ヶ月が過ぎ、もうすぐで夏休み。夏休みに一緒に遊びに行こうという話になる。交換留学生に沖縄で経験したことや、やってみたいことなどを聞きながら、沖縄のおすすめスポットを紹介する。</li> </ul> </div> <p>(交換留学生のカードに情報を提示)</p>
9	<p>○インタビューテスト(評価:イ 外国語表現の能力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な話題について、つなぎ言葉を用いるなどの様々な工夫をして、英語で「やり取り」する。</li> <li>・第8時で行ったペアでの「やり取り」を、教師対生徒でそれぞれ行い評価する。</li> </ul>	活用② やり取り	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>【目的や場面、状況など】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTに沖縄のおすすめのレストランや場所を紹介する。</li> <li>・ALTとの放課後の会話。ALTの友達が外国から遊びにくるので沖縄のおすすめのレストランや場所を知りたい。</li> </ul> </div>

## 6 本時の指導(第8時)

### (1) 本時の展開

	生徒の学習活動	指導上の留意点	検証の視点・評価
導 入 10 分	1 Greeting & Small Talk 2 帯活動 (Q & A⑦) 3 クイズ ペアで1人が写真のものを英語で紹介し、もう1人が写真が何かを当てる。 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と「やり取り」をしながら進める。</li> </ul>	
展 開 35 分	4 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             交換留学生に沖縄のおすすめスポットを英語で紹介することができる。           </div> 5 教師による本時の活動のモデルを提示する。 6 ペアで「やり取り」を行う。(ロールプレイ) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>【目的や場面、状況など】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交換留学生に沖縄のおすすめスポットを教える。</li> <li>・クラスに交換留学生がやって来て、3ヶ月が過ぎもうすぐ夏休み。夏休みに一緒に遊びに行こうという話になる。交換留学生に沖縄で経験したことや、やってみたいことなどを聞きながら、沖縄のおすすめスポットを紹介する。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>活動の流れ (Step 1)</b>  <b>【1回目】</b>            ① 役割を確認する。A:交換留学生役 B:中学生役            ② AがBに状況を伝え、おすすめスポットを聞き出す「やり取り」を始める。                BはAと「やり取り」しながらおすすめスポットを紹介する。  <b>【2回目】</b>            ③ Aの交換留学生役とBの中学生役を交代して、②を行う。         </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や場面、状況などを確認し、教師のモデルを示し、活動をイメージさせる。</li> <li>・留学生役はカードを選ぶ。</li> <li>・外国人と実際に話す場面を想定し、「やり取り」を行う。</li> <li>・間違いを恐れず、英語で伝えさせる。</li> <li>・つなぎ言葉やジェスチャーを使ったり、今まで学んだ表現を用いて、できるだけ会話を続けるよう促す。</li> </ul>	<p>[視点1] 場面設定の工夫があるか</p> <p>[視点2] 間違いを恐れず、様々な工夫をして、相手に伝えようとしているか</p> <p>[視点3] ペアで「やり取り」ができていますか</p>

	<p>中間評価 (Step 2) ①Step 1 で良い「やり取り」を行っていたペアを指名し、全体で共有する。</p>  <p>活動の流れ (Step 3) ①新しいペアを編成し Step 1 の②③の活動行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導をしながら、生徒を支援する。</li> <li>・「やり取り」が上手くできていたペアを全体でモデルとしてやってもらい、Step 3につなげる。</li> <li>・発表後、良かった所をコメントする。</li> </ul>	<p>[評価] ア 活動の観察</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>7 本時のまとめと振り返り 自己評価シートに記入する。</p> <p>8 次時の予告</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時を振り返り、めあてを達成できたか自己評価シートに記入させる。</li> <li>・宿題としてペアで話した会話を対話文で書せる。</li> </ul>	

## V 研究の結果と考察

研究の考察は、事前・事後のアンケート、ワークシートの記述や自己評価、授業観察を基に行った。

### 1 知識・技能の活用を図るための「目的や場面、状況などを明確にした『やり取り』」の工夫をすることにより、生徒のコミュニケーション能力を育むことができたか

#### (1) 授業全体を通しての「やり取り」の工夫

生徒のコミュニケーション能力を育むことができるよう、単元全体を通して、「やり取り」を言語活動の中心において授業を展開した。以下は「やり取り」を中心にした授業の流れである。

##### ① 導入時の「やり取り」

###### ア Small Talk

Small Talk は、教師と生徒、生徒同士が英語でコミュニケーションができる場であり、既習表現の復習や新出表現に気付かせる良い機会である。身近な話題や生徒が興味を持っている話題などを基に教師が英語で対話することを通して、生徒が話の内容に興味を示し、教師の問いに答え、「やり取り」することができた。反応が日本語であっても、英語で言い換えさせたりし、会話を継続できるようにした。



資料1 第8時間目の Small Talk の様子

###### イ Q&A

これまでに学習した表現や前時で学習した表現の質問文が書かれたカードを使って、生徒同士（生徒↔生徒）の「やり取り」をペアを変えて行った。その際、「やり取り」で使われる便利な表現（相づちやつなぎ言葉、聞き返しや確認など）にも慣れさせるように取り組んだ。回数を重ねる度に、「やり取り」に慣れてきた様子が見られるようになり、7回目ではジェスチャーやつなぎ言葉などをうまく使って、意欲的に対話を続けている様子が伺えた。



会話でよく使う言葉

**[話をつなぐ・聞き返す]**

- ・ Well... え〜と...
- ・ Let me see...え〜と...
- ・ By the way ところで
- ・ Please tell me more. もう少し話してください。
- ・ What does ~ mean? ~の意味は何ですか。

**[相づちを打つ]**

- ・ Uh-huh. うん、うん。
- ・ I see. なるほど。
- ・ Really? ホントに?
- ・ Sounds good. いいですね。

資料2 第1時間目と第8時間目の Q&A の様子

② 展開時の「やり取り」

ア 文法習得

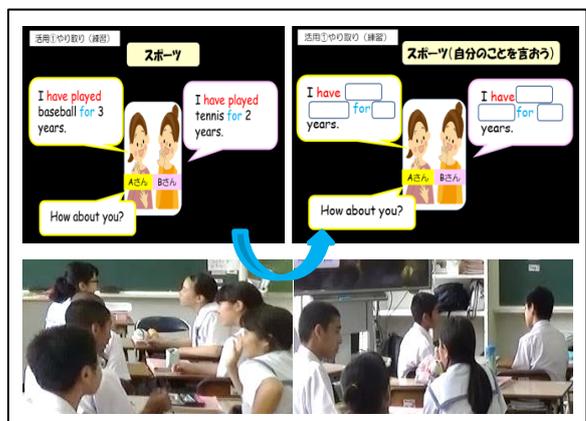
文法指導は、文構造を理解させるための教師の一方的な説明に終始するのではなく、コミュニケーションの目的を達成する上で、文法表現がどう使われているかに着目させて、生徒の気づきを促す指導を工夫した。生徒が興味を持っている内容や身近な話題を例文にし、教師→生徒の「やり取り」を通して、新出表現の導入を行った。また、文法導入での説明を簡潔に行い、新出文法を実際に活用させて文法習得を目指した（資料3）。



資料3 第1時間目の新出表現説明の様子

イ 活用①

吹き出しの対話を通して、教師→生徒への「やり取り」表現を練習した後、ペアでA、Bに分かれて「やり取り」のロールプレイを行った。次に、吹き出しの表現を穴埋めにし、自分自身にあてはめて、「やり取り」を行った。新出表現を活用する工夫として、短い部分の対話での「やり取り」ではあるが、単方向に表現するのではなく、双方向の伝え合いを意識して行った。ペアを変えながら回数を重ねていくうちに、相手の返答に相づちなどのリアクションも増え、会話を続けようとしている様子が見られた（資料4）。



資料4 第1時間目の活用①の様子

ウ 活用②

目的や場面、状況などを明確にし、交換留学生役と中学生役に分かれ、即興で「やり取り」を行った。「やり取り」を始める前に、教師によるモデルを提示し、活動をイメージできるようにした。役割を変えて「やり取り」を行い、1ペアに教室の前に出てきて発表してもらった。中間評価を通して、良かった表現や新たな表現に気づき、次の活動に生かせるようにした。回数をこなしていくうちに、つなぎ言葉やジェスチャーなども増え、会話が続くようになり、「やり取り」を楽しんでいる様子が見られた（資料5）。



資料5 第1時間目の活用②の様子

上記のような新出表現の説明、それらの表現を活用する「やり取り」の言語活動を行った授業展開を第1時から第4時まで行い、第5時と第8時では、それらのまとめとして活用②の即興の「やり取り」に重点を置いた授業展開を行った。これらを繰り返し行っていくうちに、検証授業の最初の頃に比べ、本検証では3分という活動時間では、話足りない様子が見うけられ、相づちやつなぎ言葉、ジェスチャーも増え会話が続くようになっている様子が授業観察から見取ることができた。また、検証後のアンケートでも、今まで学習した表現やジェスチャーなどを使って、会話が続くように「している・まあまあしている」と答えた生徒が、検証前より15%増加し（図1）、話すとき

に間違えるのではないかと不安に「少し思う・思う」と答えた生徒が、検証前より18%減少した(図2)。これらのことから、「やり取り」中心の言語活動を何度も繰り返し行っていくうちに、生徒が間違いを恐れずに様々な工夫をして英語を使って表現し、会話を続け、相手に伝えたいという気持ちが高まり、生徒のコミュニケーション能力を育むことができたと考える。

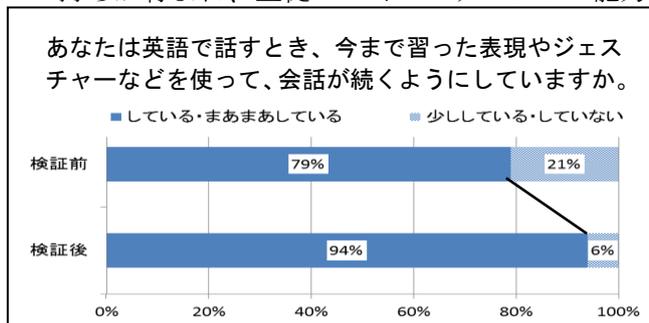


図1 会話を続けようとする生徒の割合の変化

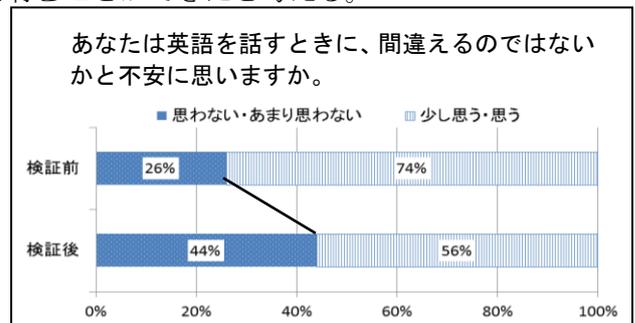


図2 英語を話すときの心情に関するアンケート

## (2) 「やり取り」に関するアンケート結果

図3・図4は検証後に行ったアンケートの結果である。「やり取り」をやってみてコミュニケーション能力は育まれた(高まった)と「思う・まあまあ思う」と答えた生徒が88%であった(図3)。その理由として、「自分で考えて話して、会話がとまらないように工夫したり、色々な事をしてたくさんの人と話せたから」「前は話ごとぎれたけどつながぎ言葉を用いて、話が続きようになり段々慣れてきたから」などがあつた。また、「やり取り」はコミュニケーション能力を高めることに「効果がある・まあまあ効果がある」と答えた生徒は94%であった(図4)。その理由として、相手が伝えたいことを分かってあげようとしたり、自分が伝えたいことを伝えられるようにできるから」「やり取りをしているときに分からなくなったらペアの人に聞いたりできたし、お互いで高めあえた気がするから」「やり取りをすることで、今まで習った単語を使ってできるし、実際のコミュニケーションにもつながると思うから」などがあつた。「やり取り」を通して、相手の言ったことを理解し、それに答えようと一生懸命、あらゆる手段を使って英語で伝え、それが相手に通じた時に英語を話す自信につながったと考える。

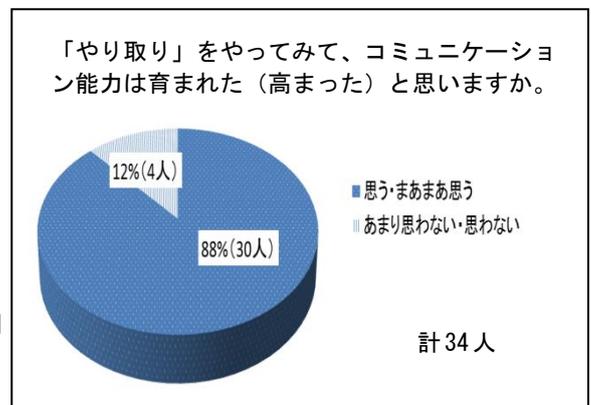


図3 「やり取り」に関するアンケート①

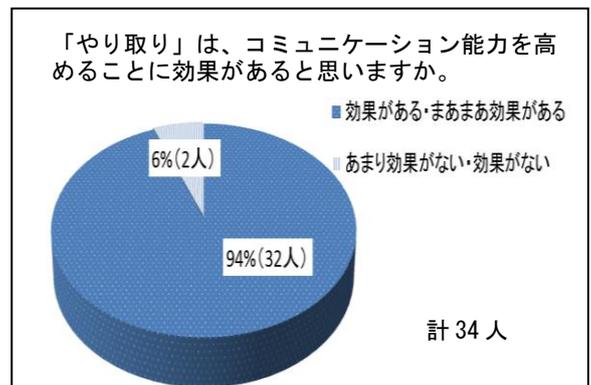


図4 「やり取り」に関するアンケート②

一方、コミュニケーション能力は育まれた(高まった)とは「あまり思わない・思わない」と答えた生徒も、「やり取り」は、コミュニケーション能力を高めることに「効果がある・まあまあ効果がある」と答えている。その理由として、コミュニケーション能力は「前と変わらないから」「数時間では高まったと思わないから」とあげているが、「やり取り」が効果的な理由として、「やる前よりしゃべれるようになったから」「ずっとやっていたら高まると思うから」とあげていることから、「やり取り」は、生徒のコミュニケーション能力を育むことに効果があると考えられる。さらに、生徒の感想に「やり取りをずっとやっているとなかなか大変だった。文章をつくらなくても単語だけで、伝えることも多かったけど、文章で伝えられた。話す力は質問が多くできるかだと思う。成長した所は、自分の事を知れた事。もっと単語力を増やしたい。」とあり、「やり取り」の活動を通して、

自分の単語力不足を実感したり、もっと話せるようになるために、単語力を身に付けようと学習意欲が湧いたことも見取ることができた。これらのことから、「やり取り」の活動は、生徒のコミュニケーション能力を育むことに効果があるので、今後も「目的や場面、状況を明確にした『やり取り』」を続けていく必要がある。

### (3) 場面設定の工夫

活用②では、知識・技能の活用を図るために、必然性のある場面設定になるよう工夫した。生徒が誰とどんな場面での「やり取り」なのかをイメージしやすくすし、ペアで「やり取り」を行う前に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを確認して授業を展開した。資料6は、検証授業8時間目に提示した場面設定の内容である。

図5は、検証後に行ったアンケートの結果で、英語を話す目的や場面、状況などを確認して「やり取り」を行うことで、以前よりも話しやすくなったと「思う・まあまあ思う」と答えた生徒が88%であった。その理由として、「確認をしておいたら、どんな話を話すとかが具体的にわかるようになっていたから」「目的や場面、状況などを確認する事で話す内容がふくらみ、やり取りの内容をイメージしやすくなったから」「話す目的があると意欲がでる」などがあった。身近で興味を持てる題材にしたり、生徒が自然に表現したいと思うような場面や状況などを明確にしたこと、さらには目的があることで、生徒が英語を使って話すという必然性を感じることができたと考える。これらのことから、生徒が英語を使う必然性を感じる目的や場面、状況などを明確にした場面設定は、生徒のコミュニケーション能力を育む一助になったと考えられる。

**【目的や場面、状況など】**

- ・交換留学生に沖縄のおすすめスポットを教える。
- ・クラスに交換留学生がやって来て、3ヶ月が過ぎ、もうすぐで夏休み。夏休みに一緒に遊びに行こうという話になる。交換留学生に沖縄で経験したことや、やってみたいことなどを聞きながら、沖縄のおすすめスポットを紹介する。

資料6 目的や場面、状況などの確認

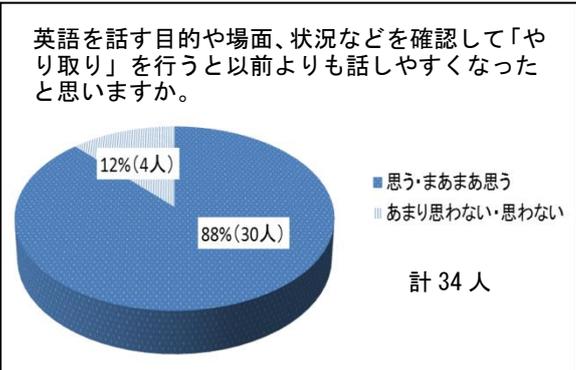


図5 目的や場面、状況などに関するアンケート

### (4) 生徒のワークシートと感想

沖縄のことを英語で紹介することができる。

A: I want to know about Okinawa.  
.....  
Could you tell me about Okinawa?

B: Sure.  
.....  
Have you ever eaten Satandagi?

A: No, I haven't.  
.....

B: Satandagi is my favorite food.  
.....  
It's very delicious.  
.....  
You should eat it.

B: By the way, have ever been to Shuri castle?  
.....

A: No, I haven't.  
.....

B: You should go there.

資料7 ペアでのやり取り (第5時)

交換留学生に沖縄のおすすめスポットを英語で紹介することができる。

A: I want to know about Okinawa more.  
.....  
Where do you recommend?

B: Have you ever been to Thuraumi aquarium?  
.....

A: No, I haven't.  
.....

B: There is a very famous okinawan spots. You can see beautiful fishes and big fishes. you should go there.  
.....

A: OK.  
.....

B: By the way, have you ever eaten sweet potato tort?  
.....  
banimo talato?

A: No, I haven't.  
.....

B: It's delicious. I often buy it.

資料8 ペアでのやり取り (第8時)

上記の資料7・8は、同じ生徒の第5時・第8時の交換留学生と中学生のペアでの「やり取り」の内容である。第5時に比べ、□で囲まれた部分にあるように、第8時では話の内容に説明が加わっており、コミュニケーションの意欲が高まっていることが分かる。授業観察からも、「やり取り」を繰り返していくうちに、自分の思いを英語で表現したいと、相手に伝わるように工夫をしながら、楽しんで「やり取り」している様子が見られた。

授業を受けて 会話を続けようとする気持ちの方が身に付いた  
 と思います。「やり取り」をやった最初は 上手く英語で伝える  
 ことができなかったけど、やっていくうちに、会話が続き楽しかった。

理由 授業でたくさんの人とのやり取りをしておいて楽しく文法を覚えることができ  
 ました。文法を習っても、実際にしゃべったりして使わないとあまり覚えられない  
 ので実際に友達と会話できてとてもよかったなと思いました。  
 テストもAだったのでとてもうれしかったです。

【自己評価】 ● → よく分かった ◎ → 分かった ○ → あまり分からなかった △ → 全く分からなかった

最初の頃は、相手の「会話か」がなかったと思う。  
 つまるところなどは、well や let's see. や By the way など使ってもらった。  
 Q & A や AOPで「前」で発表するやつをみて、こういう表現いいなとか 考えるようになった。

【自己評価】 ● → よく分かった ◎ → 分かった ○ → あまり分からなかった △ → 全く分からなかった

資料9 生徒の事後アンケート、毎回の自己評価シートの単元の目標に対する自己評価の感想

また、資料9の生徒の感想からも、「やり取り」を通して、実際に学習したことを活用することで、表現に慣れることができたと同時に、会話を続けることができた喜びが自信へと結びついたと考えられる。さらに生徒の感想からもわかるように「やり取り」をすることで、新たな表現に気づき、お互いに学ぶことができることも大事なことである。これからも「目的や場面、状況などを明確にした『やり取り』」の授業を展開していき、生徒のコミュニケーション能力を育てていきたい。

## VI 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

- (1) 「目的や場面、状況などを明確にした『やり取り』」を工夫したことにより、間違いを恐れず、様々な工夫をして、自分の思いや考えを伝えようとする生徒が増え、生徒のコミュニケーション能力を育むことができた。
- (2) 「やり取り」を通して、新たな気づきや自分の課題に気付くことで、英語でコミュニケーションをしようとする意欲や態度を育むことができた。
- (3) 文法中心のドリル型の授業から、文法を活用した双方向のコミュニケーション型の授業へ改善することができた。

### 2 今後の課題

- (1) 生徒の表現意欲を高める（英語を使う目的が明確な）場面設定を常に工夫し、「どう表現したらいいか」と問いを持ち学びたいとする授業展開の工夫を継続していく。
- (2) 英語でどう表現するかわからないといった苦手意識のある生徒や、語彙力がなく伝えたくても伝えきれないという生徒への手立てや段階的な指導方法を工夫する。
- (3) 生徒同士の「やり取り」の際に出てくる、文法的に間違いのある表現を、生徒の意欲をそがないように、正確な表現に言い換え、伝えていく手立ての工夫を考えていく。
- (4) ペアからグループへの「やり取り」など、たくさんの人とお互いの考えや思いを伝え合う対話活動ができるような指導の工夫をする。

### 〈主な参考文献〉

文部科学省	『中学校学習指導要領解説』 外国語編		2018年
泉 恵美子・門田修平 編著	『英語スピーキング指導ハンドブック』	大修館書店	2016年
太田 洋 著	『英語の授業が変わる 50のポイント』	光村図書	2012年
村野井 仁 著	『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』	大修館書店	2006年
田中武夫・田中知聡 著	『「自己表現活動」を取り入れた英語授業』	大修館書店	2003年